平成28年度　沖縄県立総合教育センター特別支援教育班　前期長期研修員　第2回検証授業

「生活単元学習」学習指導案

日　　時：平成28年７月６日（水）

　　２校時（９:40～10:25）

場　　所：中学部１年教室

対象児童：中部１年

授 業 者：漢那武司（ＣＴ）他１名

指導主事：川満　恵

Ⅰ　研究テーマ　　特別支援学校における社会生活能力を高める工夫

-生活単元学習における「ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム」の活用-

Ⅱ　研究仮説

　１**「Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」と「個別の教育支援計画」を基に生徒の実態を把握し、単元ごとに生徒個々に適切な個人目標を設定することによって、より効果的に指導することができるであろう。**

２「ＳＥ**Ｌ－８Ｓ学習プログラム**」を生徒に実態に応じて、内容・項目を工夫・改善する事によって生徒が興味関心を持って授業に取り組み、定期的に「ＳＥ**Ｌ－８Ｓ学習プログラム**」を取り入れた授業を行うことによって、｢社会生活能力｣を高める事ができるであろう。

Ⅲ　研究テーマとの関わり

本校中学部においては、**社会生活能力を高めることを目的として「**生活単元学習**」**の指導の重点の１つに「多種多様な経験を通して、社会生活に適応できる基本的な知識と技能及び態度を身につける」と置き、「生活単元学習」を各教科や自立活動、行事等と関連づけ、全職員で共通理解のもと指導の充実を図っている。課題としては、生徒の実態や発達段階に応じた社会生活能力を段階的に身につけることがあげられる。

**社会生活能力を効果的に育成できる学習プログラムに、小泉（2011）が開発した｢ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム｣がある。｢ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム｣は、社会生活能力を日本の教育事情に合わせて効果的に育成できるように工夫した学習プログラムで、社会生活能力を８つに分類し、そのうちの①自己への気づき②他者への気づき③自己のコントロール④対人関係⑤責任ある意思決定の５つを対人関係の基礎のなる｢基礎的社会能力｣と位置づけている。残りの⑥生活上の問題防止のスキル⑦人生の重要事態に対処する能力⑧積極的・貢献的な奉仕活動を｢応用的社会的能力｣とし、それぞれのプログラムに沿って学習し、社会生活能力を向上させる学習プログラムである。**

**そこで、**「個別の教育支援計画」と**「**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」を活用して生徒の実態把握を行い、**段階的に「ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム」を取り入れた**授業を行うことによって、生徒の**「社会生活能力」を高めることができるのではないかと考え**、このテーマを設定した。

この検証授業では**本校中学部１年の生徒を対象に、これまで行った授業の振り返りと、夏休みに向けてのマナーやルールを学習する事によって｢社会生活能力｣の向上を目指す。また、授業で使用する色々な場面設定を、保護者や職員から生徒の実態について再度聞き取りを行い、新たに生徒個々に関する場面を設定することにより、生徒が授業に興味関心を持ち、集中力が高まることによって効果的に指導することができるかを検証する。**

（１）生徒観

対象生徒は、中学部１年の一般学級である。**「**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」において、ＢとＥは共にＳＡ（社会生活年齢）のＣ（意志交換）、Ｓ（社会参加）において他の生徒より高い数値を示しており、学校生活においても２名が中心となって話がはずんだり、諸活動が行われる場面が多い。２名とも個別の教育支援計画においての長期目標で｢学年、学部のリーダーとしての自主的な活動ができるようにする。｣とされている。ＡとＣは共にＬ（移動）、Ｃ（意志交換）の数値が低い。個別の教育支援計画支援項目として、｢自分の気持ちや要求を言葉や文章で伝えることができるようにする。｣とされている。ＥはＳＤ（自己統制）で低い数値が示されており、個別の教育支援計画においても自己の要求が通らなかった場合の対応の仕方などが課題とされている。ＦはＬ（移動）において数値が低く、集団生活において必要なルールを理解することが個別の教育支援計画においての長期目標である。また、悪天候や体調不良のときに学校を休む日があるので、家庭と連携をとって、安定した気持ちで活動できるようにする事を支援の方法としている。

（２）題材観

　 本題材は、ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラムの中の５つの学習領域を用いることで基礎的社会的能力の向上を図る。今回は、最初にこれまでの授業（４回）の復習（１回目｢基本的生活習慣｣、２回目｢自己・他者への気づき・聞く｣、３回目｢伝える｣、４回目｢関係作り｣）を各授業で使用した教材を用いながら振り返り、色々な場面においての対処法を学習する。

①相手、自己の感情の状態を理解する（福笑い）②イライラしているとき、深呼吸して心を落ち着かせる（こころの信号機）③相手にかける言葉の内容を考える。（場面設定ボード）（こころの信号機）④感謝の気持ちをきちんと伝える。（動物の顔）

次に今まで学習したことや、色々な場面での対処法などを夏休みの場面等に応用した『すごろくゲーム』を行う。マスの内容はこれまでに学習した場面や自己の経験した内容になっており、そのときにどのような対応をするかによって次に進むことができる。

この単元の授業（ストレスマネジメント、今までの振り返り）をすることによって、色々な場面においての自己の感情のコントロールや対処法が身につくのではないかと考える。

（３）指導観

　今回の授業は、これまで学習してきたＳＥＬ－８Ｓ学習プログラムの学習領域（①基本的生活習慣②自己・他者への気づき③伝える④関係作り）の復習をもとに５つ目の学習領域（ストレスマネジメント）を学習する。また、対象となるクラスの生徒は、休日等においても、外出したり地域の人と接したりする機会が多く、夏休みに向けて色々なマナーやルールなどを学習する必要があると考える。そこで、今回の授業では、これまでの復習と５つ目の学習領域（ストレスマネジメント）を｢夏休みに向けて｣という単元のもと、ゲーム形式で夏休みに関連する場面設定を作成し、生徒が色々な問題等に自己で判断して選択する力を育てる。場面設定に使用する題材は、これまでの授業で使用したものの他に、夏休みに向けて必要な事や、担任から生徒個々の新しく見えてきた課題等を聞き取り、それぞれに必要な内容を取り入れるなど、より、生徒個々に合わせた場面設定を作成した。また、生徒が興味関心を持つよう、ゲーム正式（すごろくゲーム）で授業を進めていき、生徒が最後まで集中して授業に参加できるように工夫する。

Ⅳ　題材名　　｢夏休みに向けて（すごろくゲーム）｣

Ⅴ　題材の目標

（１）夏休みに向けて色々なマナーやルールなどを学習する。

（２）色々な場面において、どう対処するかを学習する。

Ⅵ　指導計画　　総授業時数５時間（週１回）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 題　材 | 内　容 |
| １ | 新しい学級自己紹介 | 「自己紹介」「チャイムの合図」｢正座の姿勢・聞く態度｣「始めます」「終わります」 |
| ２ | いろいろな気持ち | いろんな気持ち「表情」の違い（喜ぶ・怒る・悲しい・驚く）を学習する（自分の気持ち・相手の気持ち　感情の気づき） |
| ３ | 父の日・母の日自分の気持ち・相手の気持ち | ｢私は、○○の気持ちです。｣こころの信号機の色（青・黄・赤）青は｢○｣…よい状態。黄は ｢注意｣…落ち着いて。赤は｢止まれ｣…（深呼吸）青になるのを待とう｢赤｣→｢青｣の変わる方法を探そう |
| ４ | 学年集会　みんなで力を合わせて | 関係開始｢誰か手伝って｣→協力関係｢手伝ってあげる｣の会話関係開始｢中に入れて｣→協力関係｢どうぞ｣の会話 |
| ５ | 【本時】夏休みに向けてストレスマネジメント授業（全５回）の振り返り | 今まで学習した内容を振り返る。「すごろくゲーム」夏休みに起こりそうな色々な場面において、どう対処するかを考える |

　Ⅶ　本時の指導　（５／５時間）

（１）本時の目標

これまで学習した内容を振り替えながら、いろいろな場面においての対処方法を学習する。

（２）生徒の実態

|  |  |
| --- | --- |
|  | 生徒の実態と個別目標及び評価評価　　できた…◎　　ややできた…○　　改善が必要…△ |
| 氏　名 | 本時に関する生徒の実態 | 本時の目標 | 評価 |
| Ａ | ・質問に対して簡単な文章で返事ができる。・授業中に急に立って歩いたり勝手に水を飲んだりする。 | ・ルールを守りゲームに参加することができる。・教師と一緒に色々な場面での対処方法を考えて発表することができる。・他の生徒と関わりながら、最後まで落ち着いて、授業に参加することができる |  |
| Ｂ | ・自分の意見や感想を伝えることができる。・自分の活動が終わると、体を崩して休むことが多い。・自己の学習や作業が終わると姿勢を崩して休む。 | ・いろいろな場面での対処方法を自分で考えて発表する事ができる。・他の生徒が発表する時、話を聞くことができる。・姿勢を正しくして授業に参加することができる。（前回の授業目標の継続） |  |
| Ｃ | ・ひらがな、カタカナの読み書きができる。・終わりの挨拶をしないうちに片付けて次の活動をしようとする。・疲れたり、わからないことがあったりすると、途中で飽きてしまう。 | ・自己の感想や意見を相手に伝わりやすいように発表することができる。・時間（始まりと終わり）を考えて参加することができる。・興味関心を持って授業に取り組むことができる。（教材の活用） |  |
| Ｄ | ・時計をよむことができる。・自己の気持ちが良くないと活動を止める。・人前に出て元気に発表することができる。 | ・時間を確認しながら授業に参加することができる。・ルールを守って、授業に参加することができる。・自分の話したい内容をまとめ、姿勢、言葉遣いに気をつけながら発表することができる。 |  |
| Ｅ | ・身辺自立（着替え等）の指導中・他の人の行動が気になって自分の行動が進まなくなる。・他生徒の発表時に話を聞かないでおしゃべりする事が多い。 | ・姿勢や制服の乱れを意識する。・周りに気を取られずに、自己の順番を確認しながら参加することができる。・他の生徒の発表の時にしっかりと話を聞くことができる。 |  |
| Ｆ | ・授業中や給食時に姿勢がくずれる（足を上げたりする）。・話しているときに言葉使いが悪くなるときがある。・｢おはよう｣等の挨拶を積極的にするのが苦手。 | ・良い姿勢を維持しながら最後まで授業に参加することができる。・丁寧な言葉使いを意識して話すことができる。・積極的に挨拶や返事ができるようにする。 |  |

（３）　教室配置図

　　　　　　　　　　　　　　　　　黒板（掲示物）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　パソコン

テレビ

ホワイトボード　　　　　　　　　　　　　　　　　　（プレゼンテーション）

　　　（生徒の発表記入）

Ｆ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ｔ１

すごろくゲーム

Ｅ

ＴＹ

Ｂ

Ｄ

Ｔ２

Ａ

　※　生徒の場所は移動してもよい

（４）　本時の展開（５／５時間）

ＳＥＬ－８Ｓ（自己能力育成プログラムコントロール）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　学習内容「ストレスマネジメント」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 個別の課題・支援 | 備考 |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | Ｆ |
| 導入９：40　　　９：50(10分）展開１ | 前回の復習(パズル)・声のかけ方｢いれて｣｢どうぞ｣｢ありがとう｣・今まで学習した内容を復習する①｢基本的生活習慣｣自己紹介の文②｢自己・他者への気づき｣福笑い③｢伝える｣心の信号機④｢関係作り｣パズル・夏休みについて話す夏休みに向けて、守らないといけない決まりやルールがあることを教える。 | （教室に入るとき）Ｔ１「いれて」生徒「どうぞ」 Ｔ１「ありがとう。｣教材を見せながらポイントを振りかえる。①｢基本的生活習慣｣①自己紹介(1)大きな声ではっきりと(2)｢気をつけ｣の姿勢(3)みんなの顔を見る②｢自己・他者への気づき｣福笑い(驚・喜・悲・怒)各表情を表す言葉の確認③｢伝える｣心の信号機(落着く)｢青｣→嬉しい｢黄｣→嫌な気持ち｢赤｣→怒っている心の信号機を使って「青」に変える方法を確認。④｢関係作り｣パズル「入れて」「どうぞ」「ありがとう」をはっきりと言う。船の名前を聞く（前回、自分達で考えて決めた）T1｢夏休みはいつから？｣｢夏休みは何をしたい？｣｢色々な決まりを守ろうね｣ | １校時終了後の休み時間に机と椅子を廊下に出しておく。相手に対して｢どうぞ｣と言えるようにする。先生の話に注目するように言葉かけする。使用した教材を見せながら関連した言葉を引き出す。｢正座」｢楽しい」｢嬉しい」｢驚く」｢怒る」｢入れて｣｢どうぞ｣｢ありがとう｣｢落着いて｣周りと関わらせように言葉かけをする。(落ち着かせる) | 使用した教材を見せて各授業のポイントを聞き出す。｢正座｣姿勢の確認｢入れて｣｢どうぞ｣仲間に入る・入れる｢ありがとう｣恥しがらずにはっきりと｢落ち着く｣落ち着いて青にして話す言葉を選ぶ姿勢が崩れないように言葉かけをする(つま先・膝・体) | 前回まで休んでいたので、T2が補足する。授業の内容をできるだけ簡単にポイントを教えながら説明する。（復習のプリントを用意する。）無理をさせずに授業に参加させる。 | 使用した教材を見せて各授業のポイントを聞き出す。｢正座｣姿勢の確認｢入れて｣｢どうぞ｣仲間に入る・入れる｢ありがとう｣恥しがらずにはっきりと話す｢落ち着く｣落ち着いて言葉を選んで話す話したいときは手を挙げて発表させる。他の生徒の発表を聞く | 使用した教材を見せながら関連した言葉を引き出す。｢正座」｢楽しい」｢嬉しい」｢驚く」｢怒る」｢入れて｣｢どうぞ｣｢ありがとう｣｢落ち着いて｣姿勢が崩れないように言葉かけをする(つま先・膝・体) | 使用した教材を見せて各授業のポイントを聞き出す。｢正座」｢楽しい」｢嬉しい」｢驚く」｢怒る」｢入れて｣｢どうぞ｣｢ありがとう｣｢落ち着いて｣授業に集中できるように言葉かけをする。 | アラーム矢印(始め･終わり)(掲示物)自己紹介福笑い喜び悲み怒り驚き信号機赤色青色黄色パズル（帆船） |
| 展開２９：5010：15(25分) | ・｢もうすぐ夏休みすごろくゲーム｣ルール説明：すごろくゲームの各停止場所に色々な場面設定の問題（前回までの授業の内容や生徒個々の経験など）を解いていく。正解（良い意見）だったら進むことがでる。・ゲーム開始・ゲーム終了 | ・教室にすごろくゲームを広げる※もし、生徒から他の良い回答が出たら、ホワイトボードに書き残す。（すごいね！）・全員で一つのチームを作って進めていく。交代で問題に答える。問題は、生徒個別に準備している・良い答えが出るまで待つ。（不正解はない）・｢正解!｣→１マス進む良い答えが出たら、ホワイトボードに記入する。・正解したら次の生徒が答える。・トロフィーの授与 | ・他の生徒が発表している際の聞く態度を声かけで意識させる。・自分の順番を待つように声かけする。・順番を待っている間は、姿勢をしっかりと保つ。言葉かけをしながらゲームに参加させる。・できるだけ、生徒自身に考えさせ、答えを出させる。（不正解はない）・答えが難しいときは簡単なヒントを与える。。正解が出たらみんなで拍手するよう言葉かけする。無理に座らせずに授業に参加させる。 | 大きな声で発表するように言葉かけをする。体を真直ぐにして座るように言葉かけする。 | 言葉かけをしながらゲームに参加させる。無理をさせずに授業に参加させる。 | ルールをしっかり守りながら参加する。他の生徒の発表をしっかりと聞く。 | 他の人の順番の時に話を聞くように言葉かけをする。体を真直ぐにして座るように言葉かけする。 | 他の人の順番の時に話を聞くように言葉かけをする。体を真直ぐにして座るように言葉かけする。 | すごろくゲームパソコンテレビトロフィー |
| まとめ10：1510：25(10分) | ・今日のゲームの感想本時の資料を１週間廊下に掲示しておく。（学習内容の定着化）・アラーム（５分前）次の授業の説明と机の片付けの言葉かけ・次回の予告・終わりの挨拶 | ・あと５分で授業が終わることの確認（時計の確認）・片付けの時は、みんなどうするのかな?（協力しよう）・｢正座｣｢礼｣の姿勢の確認 | 今日の感想を直接聞く。みんなで協力して机をもとに戻す（協力する）｢正座｣をする時、脚を閉じる。手は膝、口は閉じて先生の目を見る。２学年集会での｢夏休みに向けてのマナー｣を意識させる。｢正座｣の姿勢（膝をくっつける、背筋を伸ばす、口を閉じる）言葉かけする。。 | 積極的に手を上げて発表する。 | 今日の感想を直接聞く。 | 手を上げて発表から発表する | 今日の感想を直接聞く。 | 発表時の言葉使いに気をつける。 | アラーム |

（５）授業者の評価

適切…◎　やや適切…○　改善が必要…△

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目 | 評価 | 備考 |
| 1. 題材と研究テーマとの関わりがみられたか
 |  |  |
| 1. 題材の目標、本時の目標は適切であったか
 |  |  |
| 1. 個人の目標は適切であったか
 |  |  |
| 1. 授業の展開は適切であったか
 |  |  |
| 1. 指導形態（集団学習）は適切であったか
 |  |  |
| 1. 生徒への支援は適切であったか（タイミング・言葉かけ・動き等）
 |  |  |
| 1. 場の設定は適切であったか
 |  |  |
| 1. 教材・教具は適切であったか
 |  |  |
| 1. 時間の配分は適切であったか
 |  |  |
| 1. ＴＴの連携は適切であったか
 |  |  |
| 個人目標の達成状況の確認と次時の学習内容をどうするか |

（６）検証

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検証項目 | 検証の方法 | 結果 |
| 生徒個々にあった目標を設定することができたか。 | ｢個別の教育支援計画｣及び｢Ｓ－Ｍ社会生活能力検査｣を活用しながら生徒個々の目標、支援等を確認する。 |  |
| 本時の目標を意識して指導することができたか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２）・夏休みのマナーやルールを伝えることができたか。・色々な場面での対処法を生徒が学習することができたか。 |  |
| 授業内容は生徒の実態に合った内容だったか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２）生徒の授業中の様子から考察する。・内容を理解して参加できたか。・興味関心を持って参加できたか。 |  |
| 前回使用したイラスト等を活用することにより、生徒が内容を再確認する事ができたか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２）生徒の授業中の様子から考察する。前回学習した教材等の再確認・言葉や内容を覚えているか（覚えている・思い出した） |  |
| SEL-8S学習プログラムを活用することで生徒の自己・他者の感情を理解する力が向上したか | 上記４項目を総合的に判断する。生徒の変容が見られたか確認する。（授業の様子及び生徒の実態調査を参考にする） |  |